

本号では、脊椎脊髄外科領域で最も診断に苦慮する腰痛、特に椎間板性腰痛についての特集が米延策雄先生によって組まれた。椎間板性腰痛の病態に迫るには変性の自然経過の解明、生化学的、バイオメカ的、そして画像診断学的に集中してアプローチする必要があり、それぞれの研究分野でのトップランナー6人の先生方にご執筆いただいている。椎間板解剖学への精通から始まり、変性の自然経過、炎症によって惹起されるサイトカインの影響、そして各椎間の不安定性の関与、最後に痛みを客観視できる最先端の画像診断学と盛りだくさんである。これから購読される先生方にはワクワクするような内容である。

2014年11月、千葉幕張で高橋和久会長が開かれた日本腰痛学会で「腰痛を科学的に評価する」が主題として取り上げられ、激論が繰り広げられたことは記憶に新しい。痛みは感覚であり、それに情動も加わってくる。また、今までこの痛みを客観視できるツールがなかったことも事実であり、それが診断をより難解にしている。

痛みがすべて椎間板変性、椎間板の神経根への機械的圧迫、髄核脱出による炎症反応、そして椎間関節の不安定性に起因していれば、診断、治療に苦労はしない。最近の痛み治療薬の変化をみてもそうであろう。抗炎症剤に加えて、われわれ整形外科医にとって馴染みのない抗けいれん剤や抗うつ薬などの鎮痛補助薬が活躍している。まだまだ腰痛は未知の世界であり奥が深い。

私たち整形外科医、脊椎脊髄外科医は、この難解な痛みをより正確に診断、治療できるプロフェッショナル集団だと思う。この自負心をもって大きなブラックボックスに立ち向かおうではありませんか。

私が難治性疼痛を治療するときの心構えをのべる。

1: 決して治療法はないとはいわない。外来へ来たときには、必ず次の解決策があることを話す。たとえば薬の増量にしても薬を変えるにしても、これでよくなるかもしれないと少しでも期待をもたせてあげるべきだ。

2: 笑顔と笑いで対応する。楽観主義者でいること。治療する側が暗い顔をしていては患者さんはもっと暗くなる。つらいのは患者さんである。

最後に、このたび伝統ある脊椎脊髄ジャーナルの編集委員に加わることにしました。今後は皆様にご執筆のお願いをすることが多くあることと存じます。その折はどうか協力のほどをお願い申し上げます。

(松山幸弘)

# 脊椎脊髄ジャーナル

## 編集顧問

長島親男 小野啓郎 萬年 徹  
高橋 昭 金田清志 小山素磨  
小柳知彦 田代邦雄 国分正一  
服部孝道

## 編集委員

戸山芳昭 (編集委員長)  
青木茂樹 安藤哲朗 金 彪  
園生雅弘 高安正和 田口敏彦  
谷 論 徳橋泰明 花北順哉  
飛驒一利 松山幸弘 米延策雄

Vol. 28 No. 1

(2015年1月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価 (本体2,300円+税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店  
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当: 山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2015,

Printed in Japan

**JCOPY** (社)出版者著作権管理機構 委託出版物  
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。